**ダブル ハング窓の、特殊な機能**

[**cdhcudhfeature**](#_top)

米国製のﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓が、日本の洋風住宅に使われだしてから、おおよそ30年ほどの

歴史があります。

しかし意外な事に、この窓を装着した多くの方が、今でもこの窓の便利な機能を知らずに、又活用せずに、生活しておられるのに遭遇します。

今回、米国ﾏｰｳﾞｨﾝ社のﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓の、ﾒﾝﾃﾅﾝｽの紹介に入る前に、改めてこの便利で

有益な機能をご説明する事に致します。

注!!　“窓の上げ下げ操作の改善方法”は、より詳しい別のﾘﾝｸ先を、ごらんください。

**1.**　ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓は、この名前の通り、上部のｻｯｼ(ｶﾞﾗｽ障子)と、下部のｻｯｼ（〃）が

それぞれ独立して、手動で上下動します。

①　室内の空気は、暖気は上層へ、少し冷たい空気は下層へ位置するよう、常に

ゆっくりと循環をしています。

②　この状態から、ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓の、上部窓を下方に少し下げると、この部分へ

溜まっていた室内暖気が、屋外へ自然に排出されます。

　　　③　これに続いて、下方の窓を少し上げると、上部窓から排出された室内暖気を

補うように、窓の下方から、屋外の新鮮な外気が室内へ侵入してきます。

　　　④　この事から、ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓を開ける事は、室内空気の自然対流に合わせ、

より効率良く、急速に、室内の換気ができる事を意味します。

　　　⑤　上下窓の相互の開閉量によっては、換気量や換気速度をも、調節できます。

　　　⑥　窓の大きさや、設置位置等によっては、少雨時の少量換気や、不在時の少量

換気の設定も可能です。

又、寒冷時の少量緩慢換気は、上部ｻｯｼのみのわずかな開きで、実現できます。

**2.**ﾏｰｳﾞｨﾝ社のﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓は、上下窓とも内倒しができ、室内で屋外側ｶﾞﾗｽ障子の拭き

取り掃除ができます。　ただし、窓の製造年によって、その内倒し方法が異なります。

（1.）2002年以前の製品　製品記号　CDH

　　　この年代での製品では、手製のつっぱり棒を用意する事により、ｶﾞﾗｽ障子の

下辺を回転軸にして、簡単に、その上辺を室内側へ水平に倒すことができます。

※　用意する物　〇　窓下端から15ｾﾝﾁほどの高さに、最上段ある安定した脚立

〇　手製の四角のつっぱり棒（ｶﾞﾗｽ障子の室内側木枠横幅+15ﾐﾘ程の長さ）

〇　ｶﾞﾗｽ障子の、上辺木枠防護のための雑巾2枚

①　下方のｶﾞﾗｽ障子を下から50～100ﾐﾘ程、開けます。

次いで、このｶﾞﾗｽ障子の上辺木枠から30ﾐﾘ程度の上方位置へ、用意した長さの

つっぱり棒を入れて水平につっぱらせます。

左右縦枠に付随する塩ビ樹脂の弾力枠が、つっぱり棒に押されて凹みます。

この状態から、ｶﾞﾗｽ障子上辺に両手を掛け、室内側へ引き倒すように引くと、ｶﾞﾗｽ障子がその下辺を軸に室内側へ倒れ、水平となります。

倒した下方ｶﾞﾗｽ障子の“上辺木枠のみ”を、安定した状態で脚立の上部へ

載せて、確実に支持します。

次いで、上方ｶﾞﾗｽ障子を、水平の下方ｶﾞﾗｽ障子の上方50ﾐﾘ程度まで下げた

うえで、つっぱり棒の位置を移動してつっぱらせ、同様にして上辺を手前に

引き倒し、ほぼ水平状態として、下方ｶﾞﾗｽ障子に重ねます。

　　　②　この安定した状態で、上部ｻｯｼから順に拭き掃除を行い、これを終えたら、

ｻｯｼ上辺を建て起こして、元に戻します。

注意!!　　詳しくは、ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓の掃除方法の、“リンク”先をご覧ください。

**3.** 　2003年以降の製品　製品記号　CUDH（ｸﾗｯﾄﾞ ｱﾙﾃｨﾒｯﾄ ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ）

　　 ①　この年代の製品では、上下ｻｯｼ（ｶﾞﾗｽ障子）を内倒しする際に、つっぱり棒を

必要としません。

　　　②　上下窓ｻｯｼ上辺木枠には、それぞれ個別の内倒し用の機構が組み込まれています。

下方ｻｯｼにはﾛｯｸﾚﾊﾞｰに内蔵された内倒し用の小ﾚﾊﾞｰがあり、上方ｻｯｼには、室内

側木枠の上面左右に、ｻｯｼ中央への引き寄せﾗｯﾁが、取り付けられています。

この小ﾚﾊﾞｰを引く、又は左右ﾗｯﾁをｻｯｼの中央へ引き寄せる事によって、

それぞれのｻｯｼ上辺の、左右縦枠からの拘束が外れ、ｻｯｼ下辺を軸に、ｻｯｼを

簡単に内倒しできます。

　　　③　ｶﾞﾗｽ障子の屋外側の拭き取り掃除の手順は、先の例と全く同じです。

　　　注意!!　　詳しくは、ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓の掃除方法の、“リンク”先をご覧ください。

**4.**　 ﾀﾞﾌﾞﾙﾊﾝｸﾞ窓では、屋外側へ網戸が装着されています。

（1.）　ﾏｰｳﾞｨﾝ社の網戸ﾈｯﾄは、一般的には、ｸﾞﾗｽﾌｧｲﾊﾞｰの撚糸で耐久性の高い製品です。

（2.） このﾈｯﾄの色はﾁｬｺｰル ｸﾞﾚｰで、最も目障りとならない色と言われています。

（3.）　網戸の清掃は、海岸に近い場所以外は、年に１回程度の水掛洗いで充分ですので、

　　　　網戸の必要な季節が過ぎたら取り外して水掛洗いし、保管する事をお勧めします。

（4.） ﾈｯﾄが目障りとならない色であっても、無ければ室内からの景観が、より明るく

なりますし、屋外からの景観は、くすんだ色から見違えるほどきれいになります。（内倒しによる、拭き掃除の効果もあって）2/5/2016訂正